

Vascular Street Journal



福岡大学筑紫病院循環器内科 教授就任、診療科の紹介



福岡大学筑紫病院循環器内科スタッフ

- | | | | | | |
|--------|------|------|------|------|------|
| (1 列目) | 浦田先生 | 岡本先生 | 河村先生 | 松尾先生 | 山本先生 |
| (2 列目) | 吉田さん | 足達先生 | 白井先生 | 池先生 | 衛藤先生 |
| (3 列目) | 奥田先生 | 清水先生 | 市岡先生 | | |

ご挨拶

令和2年4月1日付で福岡大学筑紫病院 循環器内科の教授・診療部長に就任いたしました、河村 彰 (かわむら あきら)です。

私は平成6年に福岡大学医学部を卒業し、福岡大学病院内科学第2講座(荒川 規矩男教授・現名誉教

授)、現在の心臓・血管内科学講座(朔 啓二郎教授・現福岡大学長、三浦 伸一郎教授)に入局いたしました。その後、福岡大学病院や済生会福岡総合病院などで、主に心臓カテーテル検査や冠動脈インターベンション、すなわち虚血性心疾患や心不全といった疾患を中心に、循環器一般の臨床に従事いたしました。部外修練より福岡大学病院に帰ってからは、冠動脈疾患患者を対象とした臨床研究を行い、その研究論文の一つで学位を取得いたしました。また、福岡大学病院においては病棟医長、医局長を務め、病診連携や人事、管理業務についても経験いたしました。その後、当時の朔 啓二郎教授のお許しを得て、ドイツのミュンスター大学へ留学させて頂き、脂質と炎症性サイトカイン、動脈硬化についての研究を行い、研究結果を論文発表いたしました。この経験から、虚血性心疾患のみならず、動脈硬化や炎症性サイトカインに関しての興味も得るに至り



教授 河村彰

ました。帰国後は再び、循環器内科の臨床、研究に携わり、平成25年からは、福岡大学病院 卒後臨床研修センター専任医師(副センター長)に就任し、研修医教育を始めとした医学教育にも従事いたしました。卒後臨床研修センターでは福岡大学病院の初期研修プログラムや内科専門研修プログラムの作成、運営などを担当いたしました。ここでも様々な経験をさせて頂きましたが、医師として、人間として優秀な人材を確保または輩出するためには教育が大変な重きをなし、同時に医師は一生涯、教育を受け、自己研修に励むべきだと痛感させられました。教授として、診療部長として、今後、医学教育へも注力していきたいと考えています。

福岡大学筑紫病院循環器内科について

さて、平成30年度の福岡大学筑紫病院循環器内科外来患者数は平均43.6人/日で、循環器科入院患者数は755人でした。循環機能検査件数は、心臓カテーテル検査(冠動脈造影を含む)529例、冠動脈CT検査118例、心エコー検査4044例、経食道心エコー検査27例、ホルター心電図検査739例です。循環器疾患治療件数は、経皮経管冠動脈形成術(バルーン拡張術、ステント留置術)152例、経皮的腎動脈形成術(PTRA)6例、上肢および下肢動脈形成術(PTA)25例、永久ペースメーカー植え込み術30例、下大静脈フィルター留置7例、内シャント作成術12例、血液透析施行 480回です。

今後の目標

今後、当院循環器内科では冠動脈インターベンションの症例数増加を目指すのはもちろんの事、末梢血管疾患に対する血管内治療数の増加や、将来的には不整脈に対するカテーテルアブレーションの確立も目指して参ります。そのためには冠動脈疾患の予防外来やスクリーニング外来の充実が重要かと考えます。加えて検査技師の教育を行い、ABI や頸動脈エコーからの患者発掘など、病診連携や、他科・多職種連携も重要であると考えております(図1、2)。

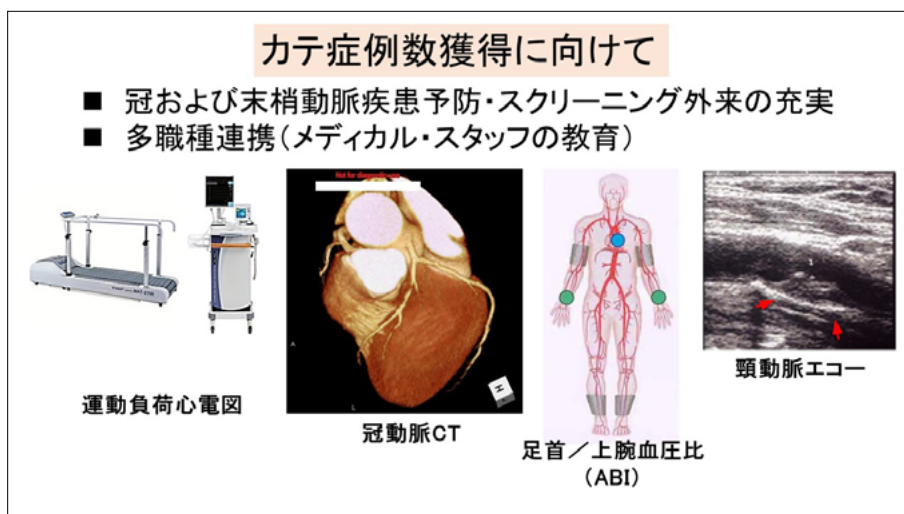


図 1



図 2

また、福岡大学筑紫病院は、地域医療支援病院として、広く地域に開かれた病院であり、それを常に意識すべきであり、かつ地域医療への貢献は命題であると考えます。特に循環器内科の患者さんは高齢者が多く、すなわち多くの併存症を抱えていると言えます。

筑紫野市の人口は、30年間で約39000人増加しており、平均寿命についても、平成27年で男性81.0歳、女性87.5歳と、男女ともに延びています。今後、患者の超高齢化により、心不全患者数が爆発的に増加する、「心不全パンデミック」の襲来が予想されており、筑紫野市も例に漏れません(図3)。当院循環器内科では、広く他科や他院の症例にも対処し、来る心不全パンデミックに備えると同時に、広く地域に開かれた病院を実践したいと考えています。そのためにはまず、病診連携ネットワークの構築が急務であると考えています。当院循環器内科においては、急患を速やかに受け入れ、症例を選ばず、病診、病病連携に特に積極的で、柔軟で、常に地域医療への貢献意識を持った診療を実践したいと考えております(図4)。

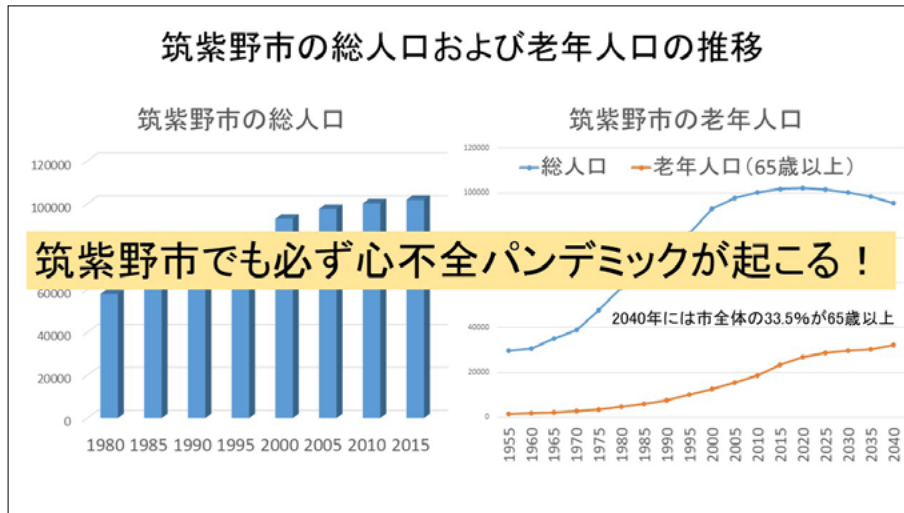


図 3

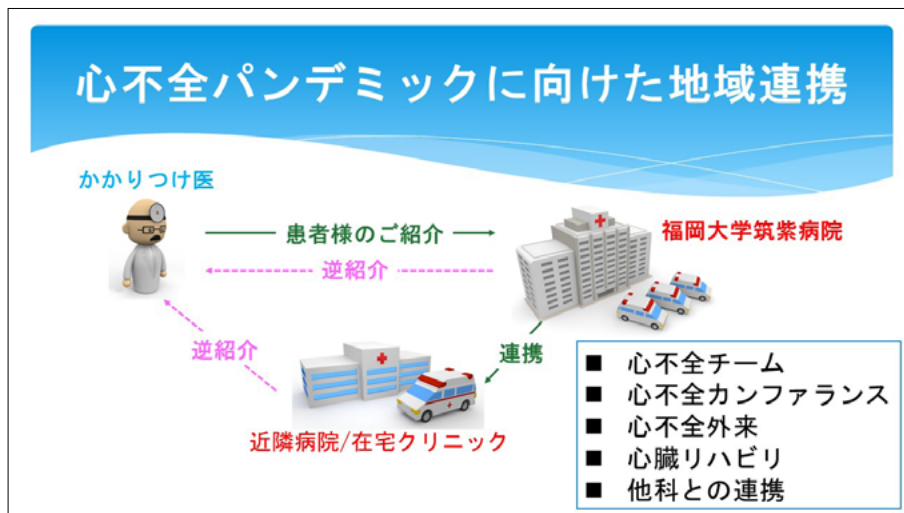


図 4

未曾有の COVID-19大流行により、思い描いていたものとはかなり違う筑紫病院でのスタートとなってしまいましたが、今できることを実践し、流行収束後のV字回復を見据え、弓を引き絞る時期とポジティブにとらえたいと考えております。今後とも皆様のお力添えを、是非とも宜しくお願い申し上げます。

Prof. S. Miura's Commentary

河村彰先生、福岡大学筑紫病院循環器内科教授ご就任おめでとうございます。私が留学から帰国した約20年前からの知り合いです。循環器内科医として多くの循環器専門医を育成され、また、卒後臨床研修センターに移動されてからは、多くの初期研修医のよい相談役であり指導役でした。その先生の類まれな能力は、今後、筑紫病院循環器内科の発展に大きく寄与することでしょう。また、福岡大学3病院の循環器内科がそれぞれの独自性は保ちながら、更なる連携ができるように期待しています。